

提出 順番	No. 6	平成 26 年 8 月 28 日 午前・午後 3 時 20 分受領
----------	----------	--------------------------------------

平成 26 年 8 月 28 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

幕別町議会議員 ふじわら 孟



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
産業用大麻の栽培で 十勝農業の母となれ。	大麻（ヘンプ）は最も古い農作物であり、BC 8 千年前の福井県鳥浜遺跡より縄が出土しているとおり、古来日本人は大麻（ヘンプ）と慣れ親しみ衣服や紙の原料として生活に利用していた。しかし第 2 次世界大戦の敗戦以降米国の食料、石油戦略や大麻取締法の制定などで大麻の栽培は免許制となり以来日本ではマリファナと混同され現在に至っております。北海道では明治から昭和の戦前まで重要な生産拠点であったが姿を消してから約 70 年も過ぎました。ところが最近になり高橋はるみ知事が道議会で「新たな農作物としての可能性について調査を続ける」と発言され予算 200 万円を計上され、各所に勉強会が広がってきました。そこで産業用大麻栽培について伺います。 1 エネルギー自給型農業の形成になることや、次世代基幹作物としての可能性を探る考えはないか。 2 産業用大麻栽培の可能性検討会を町の主導で設置しては。
不登校、ひきこもり、 ニートを地域の力に。	内閣府の調査から全国 70 万人と推計される不登校、ひきこもり。道は自宅からほとんど出ないひきこもりや 15～24 歳で仕事や通学もしない人達に対し介護職への就職の可能性を探る事業に乗り出した。介護を通じて人から頼りにされることで自信を取り戻し、社会貢献の充実感を得ながら働いてもらう狙いがある。町には福祉科を持つ高校があり、不登校生の受け入れや定員に満たないと聞くのでこの事業を町として取組むべきでは、また秋田県藤里町では、地域との繋がりを回復させようと 3 年かけて簡単なボランティアやアルバイトのできる「中間的就労」の場を作ったり、後継者不足の商店、農業や建設業に埋もれていた若い力を活用したりで、すでに 30 人が職を得るまでになっている。そこで伺います。不登校、ひきこもりの新たな実態調査、支援の可能性、追跡調査を行なうべきでは。